

エコチルひょうご通信



新年のご挨拶



あけましておめでとうございます。旧年中はエコチル調査に多大なご協力をいただき、誠にありがとうございました。

おかげさまで尼崎市におけるエコチル調査の参加者は3,100名を超え、既に2,000名以上のお子さんが誕生しています。

今年は3年目を迎え、引き続き参加者のリクルートを継続するのに加えて、出生されたお子さんのフォローアップ調査も本格的に始まります。次世代の子どもたちが健やかに育つことのできる環境を実現するため、スタッフ一同、より一層努力していく所存です。今年もご指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

エコチル調査兵庫ユニットセンター長
島 正 之



参加者が3,000人を超えました

2012年12月末現在、尼崎市におけるエコチル調査の参加者数は3,000人を超えました。

これもひとえに、尼崎市にお住まいの妊婦さんおよびそのご家族の方々、協力医療機関および関係者の皆さまのご理解・



ご協力の賜物であると、スタッフ一同心より感謝するとともに、子どもたちが健やかに成長でき、安心して子育てができる環境の実現に向けて、一層努力してまいります。



エコチル調査の認知度を調査しました

【目的】エコチル調査の認知度の把握

【調査方法】リクルートを始める前に、対象者にエコチル調査について知っていたかを口頭で聞いてみました。

【調査期間】12月1日～12月29日（約1ヵ月間）

【調査対象】兵庫ユニットセンターの各協力医療機関におけるリクルート対象者（母親）155名

【結果】「知っていた」33.5% 「知らない」66.5%

このように、3人に1人はエコチル調査のことをご存じでしたが、まだまだ認知度が低いのが現状です。今後、イベントや広報活動などを通して、認知度を上げる努力をしていきたいと思っております。

エコチル調査に関する記事が神戸新聞（2013年1月17日）に掲載されました。（裏面を参照して下さい。）

2013
1.10

【編集・発行】兵庫医科大学 エコチル調査兵庫ユニットセンター

〒663-8501 兵庫県西宮市武庫川町1番1号 ☎0120-456-019

MAIL: ecochild@hyo-med.ac.jp URL: http://www.ecochil-hyogo.jp



行事報告

2012年12月20日（木）、兵庫医科大学にて第6回兵庫エコチル調査運営協議会を開催しました。当日は関係自治体および協力医療機関の先生方にお集まりいただき、現在までの進捗状況の報告と、今後の活動について話し合いを行いました。会議にご出席いただいた先生方におかれましては、年末のご多用のところ誠にありがとうございました。



産後ママのためのヨガ教室

今後の開催予定は以下のとおりとなっています。

■ 2013年1月22日（火）14:00～15:30
場所：バイコム総合体育館（B1 エクササイズスタジオ）

■ 2013年2月16日（土）10:00～11:30

■ 2013年3月2日（土）10:00～11:30

場所：尼崎市女性センター・トレピエ
（3F フィットネスルーム）



リクルートの進捗状況（H25.1.7時点）

母親	父親
12月～1月7日までの結果（兵庫）	12月～1月7日までの結果（兵庫）
149 人	51 人
累計（兵庫）	累計（兵庫）
3,104 人	1,008 人
累計（全国）	累計（全国）
54,882 人	25,464 人



昨年12月20日に開催した第6回兵庫エコチル調査運営協議会において、兵庫におけるエコチル調査の進捗状況と、これまでに得られた生体試料についての暫定的な解析結果を報告させていただきました。

このたび、その結果の一部をもとにした以下の記事が神戸新聞に掲載されましたので、紹介させていただきます。

スギ花粉陽性、5割超

からだ

環境省が兵庫県内を含む全国の妊婦約3万人を対象に、スギ花粉によって目や鼻にアレルギー症状を引き起こす抗体を調べたところ、52.7%の抗体量が一定以上の「陽性」だったことが分かった。従来、日本人の陽性は高いとされてきたが、抗体調査には採血が必要のため、これは大規模な調査で集けられたのは初めてとみられる。妊婦であることが抗体量には明確な関連はないとされ、調査結果は花粉の多い地域と少ない地域で明確な差が出た。

調査が2011年1月に始めた「子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）」の一環で、妊婦7年まれてきた子ども計10万組を目標に長期追跡調査する。全国15地域のうち県内では、拠点となる「エコチルセンター」を兵庫医科大学（西宮市）に置き、尼崎市在住の母子が対象。これまでに3千組以上が参加している。

国立環境研究所（茨城県つくば市）にあるエコチル調査コアセンターが、12年6月までに全国で採血された妊婦約3万人の調査を集計した結果、最もスギ花粉抗体の陽性率が高い地域は山梨、長野の両県を含む甲信で66.8%、神奈川県が66.2%、愛知県が64.9%と続いた。一方、最低は花粉が少ない北海道で6.3%。次いで熊本、宮崎、沖縄県の「九州・沖縄」が39.6%、福岡県が46.8%だった。兵庫県は55.1%

環境省 全国の妊婦3万人に抗体調査



調査結果について説明する島正之センター長（右）＝西宮市武庫川町

飛散量に地域差 子への影響追跡へ

で、15地域のうち8番目に花粉の飛散量を知る上で、アレルギー疾患は、花粉の飛散量と関係が深い。以前に調査した結果、体内にアレルギー抗体がたまり、過剰に反応してアレルギー症状でも、過半数が陽性だった。地域差は花粉の飛散量に影響しているのだとみられる。今後、子カ22.1%、動物上皮18.0%、卵白0.5%だ

（金井恒幸）

との関連も追跡し、予防や治療に役立てたい。また、個別の抗体に対しての抗体量ではなく、アレルギーのなりやすさ

兵庫エコチルセンターの指標である抗体量「総では、スギ花粉抗体だけ I&Eタイプ」でなく、ダニ、カ、ネコの陽性率も調査し、子どもの母親（23960）は24.2%、父親（917人）は34.8%、島正之センター長は「母親や父親の抗体量が、子どもの抗体量にどう影響するかも調べたい」と話

2013年1月7日
神戸新聞朝刊